



2023年9月期 第2四半期

決算説明資料

東証グロース 証券コード：4427

株式会社 EduLab

2023年5月15日



当社は、東京証券取引所より、当社の内部管理体制等について改善の必要性が高いと認められたことから、特設注意市場銘柄に指定されております。株主や投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社は、**2023年4月3日**に「内部管理体制確認書」を提出し、現在、東京証券取引所の審査を受けております。

審査の結果、

- ✓ 内部管理体制等に問題が無いと認められる場合には指定が解除になります。
- ✓ 内部管理体制等に問題があると認められる場合には、上場廃止となる可能性があります。その後の改善が見込まれる場合には、特設注意市場銘柄の指定を継続し、6ヶ月間改善期間が延長されます。

今後、開示すべき事象が生じた場合には速やかに開示いたします。

1. 2023年9月期第2四半期決算概況	4
2. 2023年9月期第2四半期実績	5
3. 事業セグメント別 実績	12
4. 2023年9月期通期見通し	18
5. 事業トピックス①	20
6. 事業トピックス②	22
7. 事業トピックス③	24

1. 2023年9月期2Q決算概況

- 売上高 3,791百万円（前年同期比 15.7%減）
- EBITDA 143百万円（前年同期比 41.9%増）
- 営業利益 △214百万円（前年同期は△247百万円）
- 経常利益 △371百万円（前年同期は△115百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△1,998百万円（前年同期は△1,002百万円）
 - EPS △197.22円
- テストセンター事業、教育プラットフォーム事業、AI事業で売上高が前年並みとなった一方で、テスト等ライセンス事業、テスト運営・受託事業の売上が減少し、前年比15.7%の減収
- 業務委託費の減少等により営業損失は前年同期比で縮小
- 為替差損の発生等により経常損失は前年同期比で拡大
- ソフトウェア等の減損損失、本社移転予定費用引き当てに伴う特別損失の発生等により、四半期純損失は前年同期比で拡大

2. 2023年9月期2Qのセグメント動向

- テスト等ライセンス事業は、スピーキングライセンス収入やCASEC売上減少等により売上高は減収（29.1%減）
- 教育プラットフォーム事業は、広告事業が順調に推移した一方で、英語学習サービスのライセンス収入の減少等により売上高は減収（10.6%減）
- テストセンター事業は、テストセンター利用者数が安定して推移し、売上高は前年並み（1.8%増）
- AI事業は、手書き文字認識エンジン「DEEP READ」のライセンス収入が安定して推移したものの、グループ間での利用が減少し、売上高は減収（15.9%減）
- テスト運営・受託事業は、前年度に単独で受託した全国学力・学習状況調査（小学校事業）を再委託機関として受託したこと等により売上高は減収（36.5%減）
一方で、委託元とのコスト配分の最適化により利益率は改善し、4百万円のセグメント損失を計上（前年同期は△41百万円）

2023年9月期 第2四半期実績

連結損益計算書

(単位：百万円)

	22年9月期2Q	23年9月期2Q	前年 同期比
売上高	4,496	3,791	△15.7%
営業利益	△247	△214	-
営業外収益	277	86	
為替差益	68	-	
投資有価証券売却益	183	-	
契約解約益	12	68	
営業外費用	145	242	
為替差損	-	116	
経常利益	△115	△371	-
特別利益	1	358	
固定資産売却益	-	333	
投資有価証券評価損	-	24	
特別損失	842	1,974	
減損損失	435	1,789	
固定資産除却損	-	63	
投資有価証券評価損	160	-	
特別調査費用引当金繰入額	198	-	
上場契約違約金	48	-	
四半期純利益 ¹	△1,002	△1,998	-

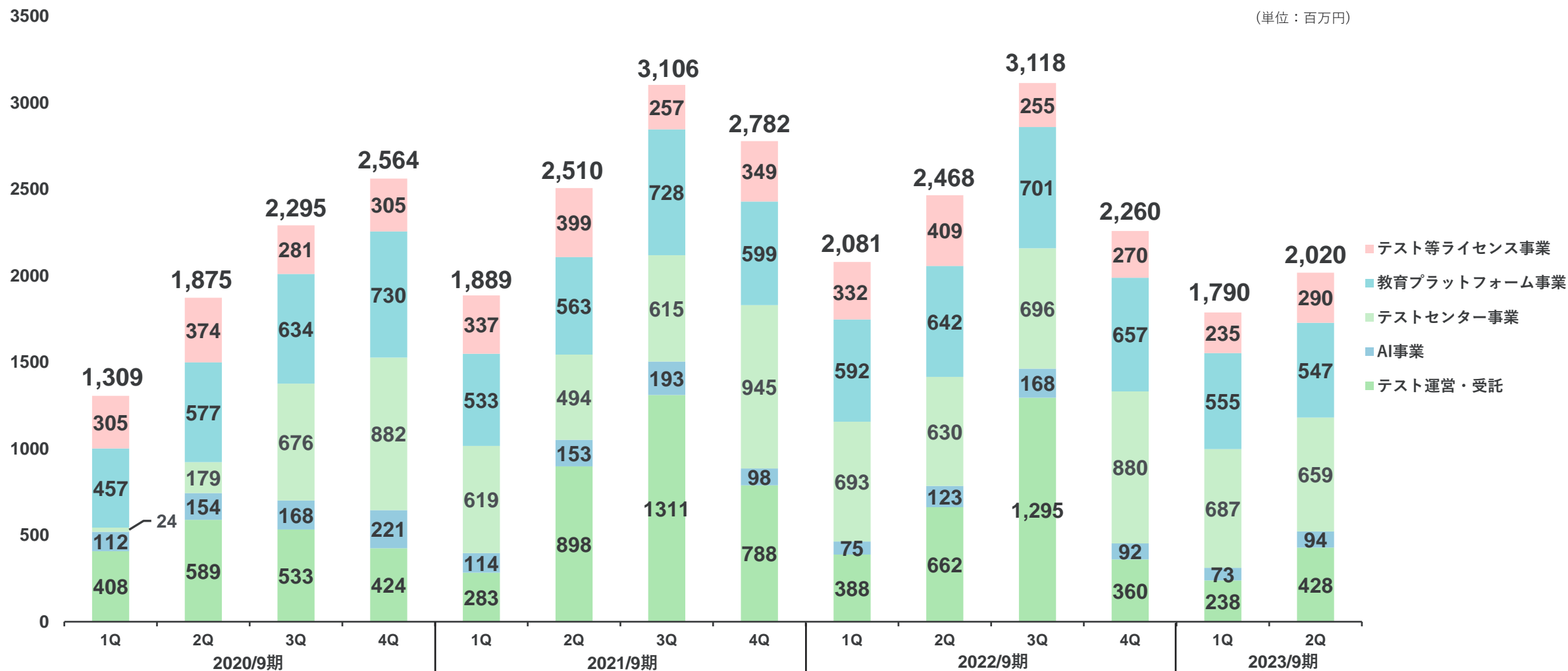
¹ 親会社株主に帰属する四半期純利益

- テストセンター事業、教育プラットフォーム事業、AI事業で売上が前年並みとなった一方で、テスト等ライセンス事業、テスト運営・受託事業で売上が減少し、**売上高は前年同期比 15.7% 減となる3,791百万円**となりました。
- 業務委託費等の販売管理費の減少により、**営業損失は縮小し、214百万円の営業損失**となりました。
- 為替差損益は、前年同期に68百万円の為替差益を計上しましたが、今期2Qは円高基調のため116百万円の為替差損となりました。これにより営業外費用が増加し、**371百万円の経常損失**となりました。
- 主にプラットフォーム事業及びテスト等ライセンス事業におけるソフトウェア等の減損損失、本社移転予定費用の引き当てに伴う特別損失の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期比で損失幅が拡大し、**1,998百万円の四半期純損失**となりました。

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント		22年9月期 2Q	23年9月期 2Q	前年同期比
テスト等ライセンス	売上高	742	526	△29.1%
	セグメント損益	229	46	△79.9%
教育プラットフォーム	売上高	1,234	1,103	△10.6%
	セグメント損益	335	226	△32.4%
テストセンター	売上高	1,323	1,346	1.8%
	セグメント損益	20	131	541.6%
AI	売上高	199	167	△15.9%
	セグメント損益	△119	59	—
テスト運営・受託	売上高	1,050	666	△36.5%
	セグメント損益	△41	△4	—
全社費用		△672	△674	2百万円減少



セグメント利益の四半期推移

(単位：百万円)

事業セグメント	2020年9月期				2021年9月期				2022年9月期				2023年9月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
テスト等ライセンス事業	95	167	90	90	135	195	79	175	73	156	△4	43	△26	72
教育プラットフォーム事業	239	320	399	436	241	222	404	246	132	203	213	181	119	107
テストセンター事業	△28	47	△215	△143	△187	△427	△18	136	91	△70	116	199	29	102
AI事業	△26	48	85	56	△235	△24	41	△122	△145	25	25	17	1	58
テスト運営・受託	△55	59	48	104	△20	108	61	△133	△61	20	49	23	△48	44
全社費用	△292	△355	△225	△255	△330	△388	△298	△286	△305	△367	△378	△472	△375	△299

(単位：百万円)

	2022年 9月末	2023年 3月末	半期増減額
流動資産	9,091	7,893	△ 1,198
現預金	6,053	5,281	△ 772
その他	3,037	2,612	△ 425
固定資産	3,342	945	△ 2,397
ソフトウェア	1,717	0	△ 1,717
投資その他の資産	1,243	945	△ 298
その他	381	0	△ 381
繰延資産	4	3	△ 1
資産 合計	12,437	8,842	△ 3,595
流動負債	5,418	4,344	△ 1,073
有利子負債	3,093	2,338	△ 755
契約負債	935	736	△ 199
その他	1,389	1,269	△ 120
固定負債	1,984	1,425	△ 559
有利子負債	1,894	1,351	△ 543
その他	89	73	△ 16
負債 計	7,402	5,769	△ 1,633
純資産 計	5,035	3,072	△ 1,963
負債純資産 合計	12,437	8,842	△ 3,595

- 流動資産は前年度末より約1,198百万円減少
 - 現預金が772百万円減少した主な要因は、有利子負債の返済によるもの
- 固定資産は、ソフトウェアの減損損失等により2,397百万円減少減少した固定資産の内訳
 - ソフトウェア：1,717百万円減少
 - 投資その他の資産：298百万円減少
- 流動負債は、1,073百万円減少
 - 短期借入金：625百万円減少
 - 1年内返済予定の長期借入金：99百万円減少
 - その他流動負債：315百万円減少
- 固定負債は、559百万円減少
 - 長期借入金：507百万円減少
 - 社債：35百万円減少
- 純資産は、四半期純損失の計上により1,963百万円減少

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	22年9月期 2Q	22年9月期	23年9月期 2Q
営業活動による キャッシュ・フロー	△584	△581	12
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,362	△3,125	988
財務活動による キャッシュ・フロー	△980	△3,251	△1,174
四半期末（期末） 現金及び現金同等物	4,628	3,441	3,286

■ 営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 減少要因：税金等調整前四半期純損失（△1,988百万円）
- 増加要因：減損損失（+1,789百万円）、売上債権の減少額（+210百万円）、減価償却費（+349百万円）、仕入債務の増加額（+204百万円）

■ 投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 開発投資等Capexは52百万円（2023年9月期2Q実績）
- 減少要因：定期預金の預入による支出（△2,552百万円）
- 増加要因：定期預金の払戻による収入（+3,169百万円）、無形固定資産の売却による収入（+367百万円）

■ 財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

- 減少要因：短期借入金の純増減額（△571百万円）長期借入金の返済による支出（△606百万円）
- 増加要因：新株予約権行使に伴う株式の発行による収入（+59百万円）

※四半期末（期末）の「現金及び現金同等物」には預入期間3か月超の定期預金は含まれておりません。

当該定期預金を含めた現預金残高は5,281百万円であります。

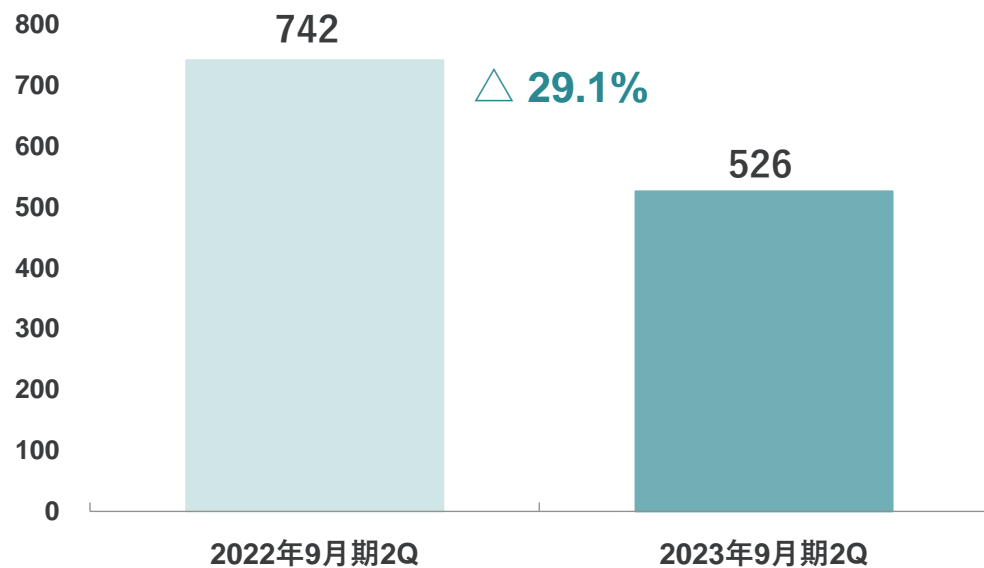
事業セグメント別 実績

- 英語スピーキングテストのライセンス収入の減少や、企業・学校向け英語能力判定テスト「CASEC」における受験者数の減少の影響を受け、売上が減少
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 29.1%減**となる**526百万円**、**セグメント利益は同 79.9%減**となる**46百万円**

売上高・セグメント損益

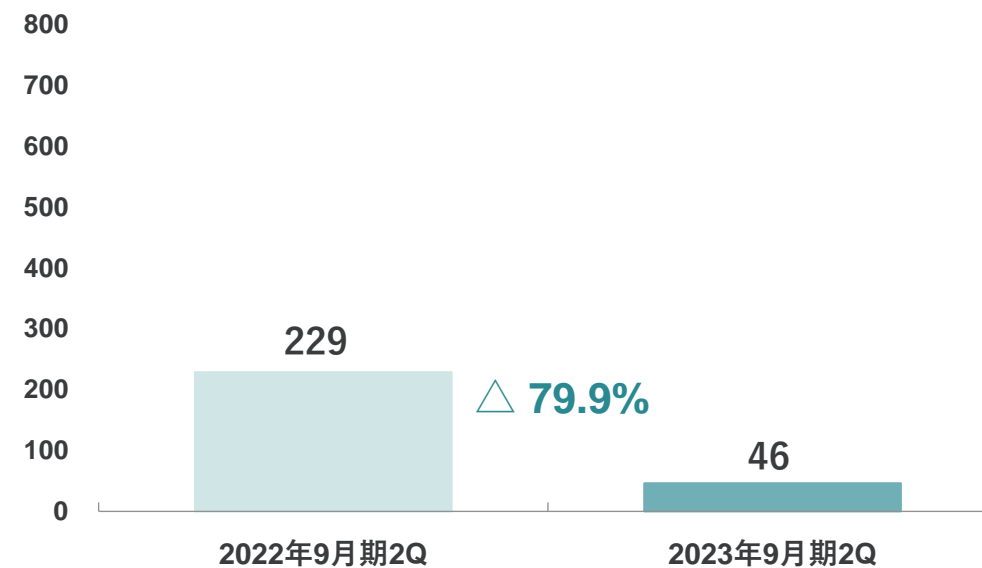
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)

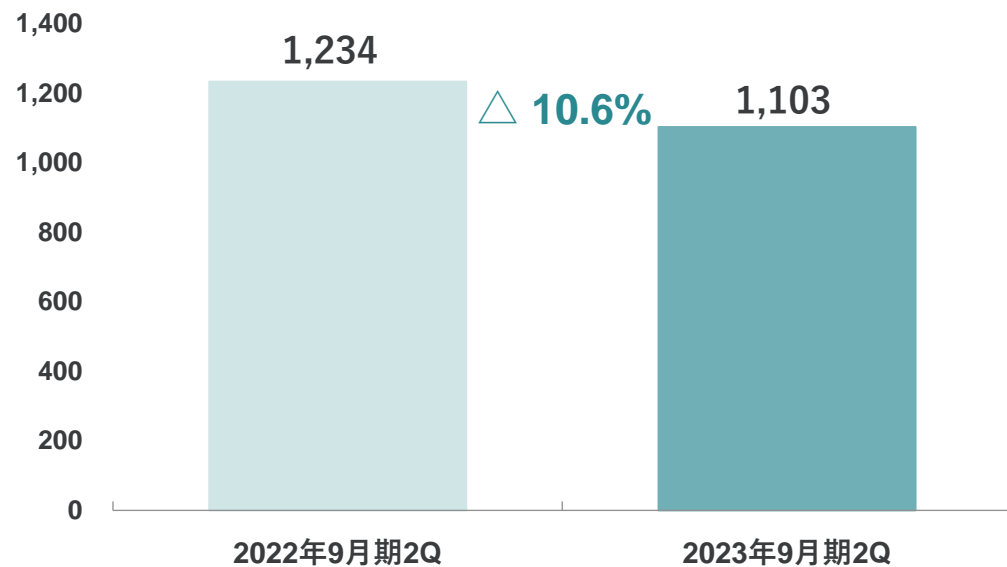


- 広告事業が順調に推移した一方で、英語学習サービスのライセンス収入の減少等により売上高は減収
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 10.6%減**となる**1,103百万円**、**セグメント利益は同 32.4%減**となる**226百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

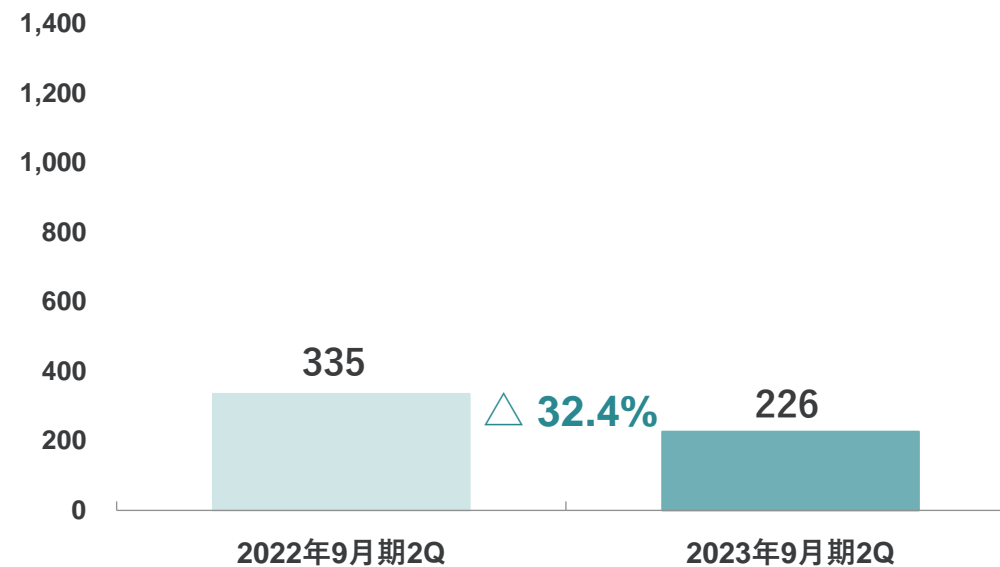
売上高

(単位：百万円)



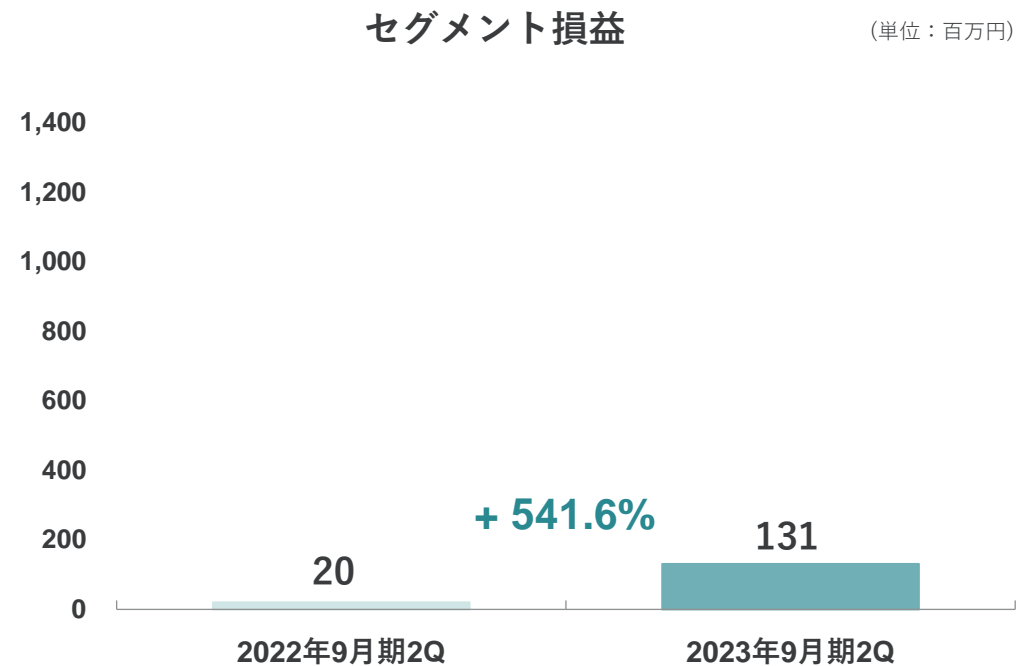
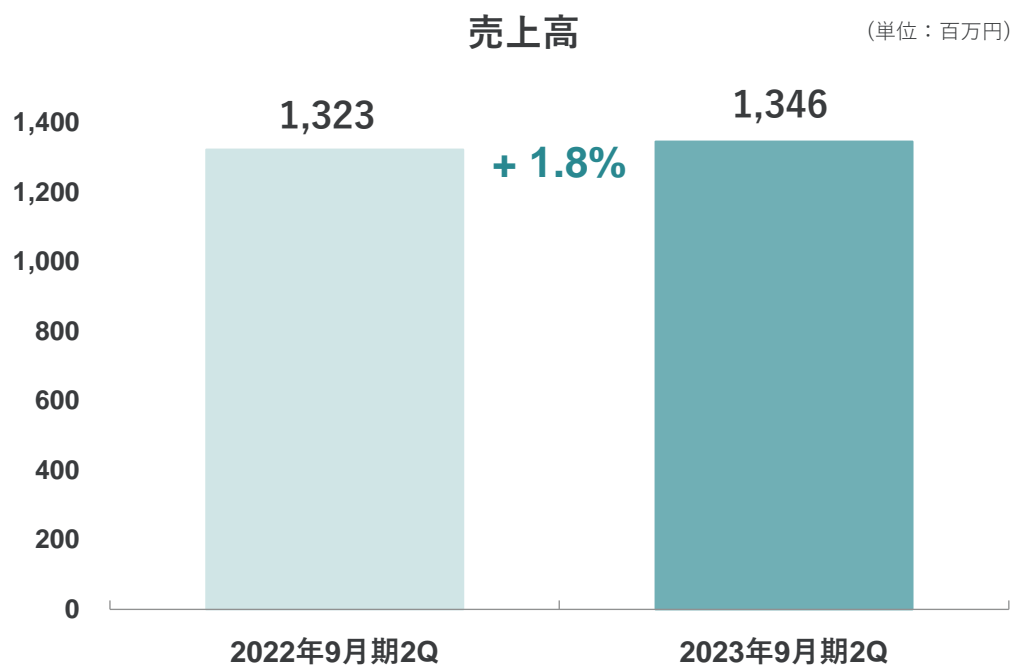
セグメント損益

(単位：百万円)



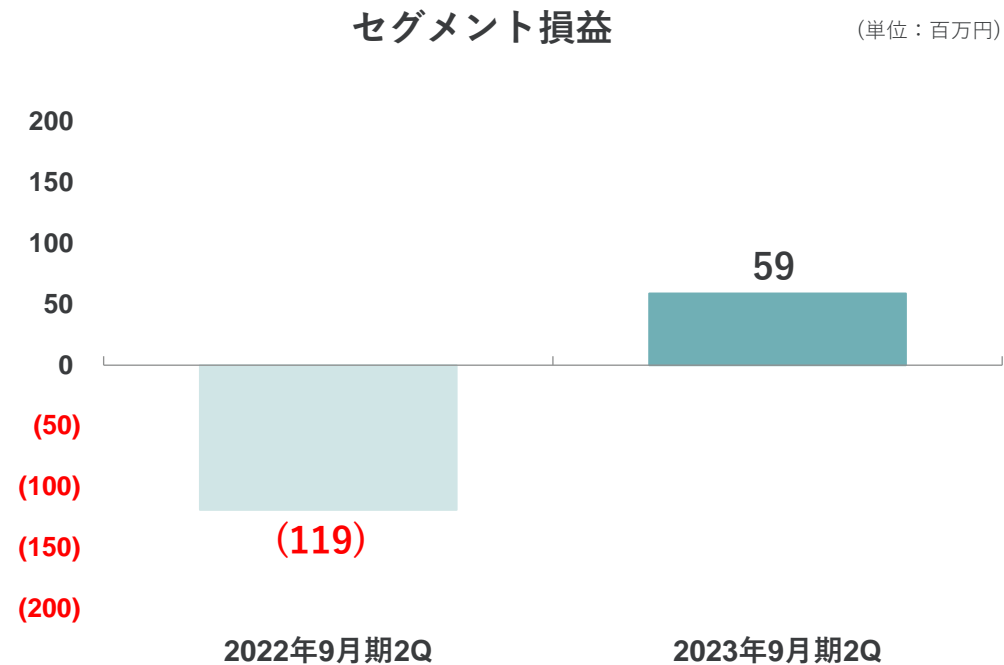
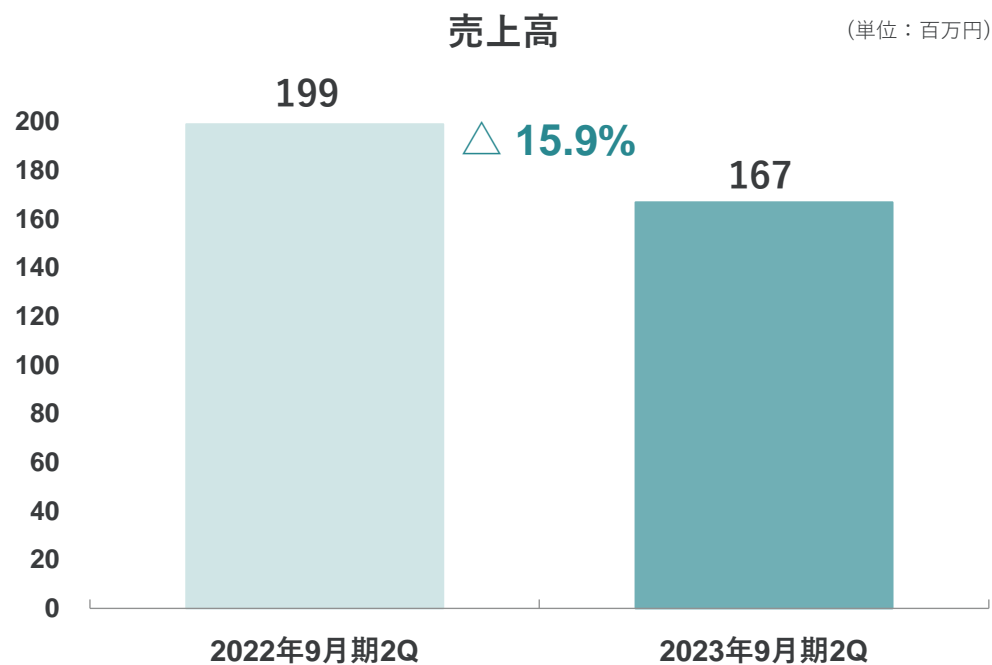
- テストセンター利用者数は今期2Qで約18.6万人（前年同期比15.5%増）と、順調に推移
- 一方で、CBT配信受託業務の一部契約終了に伴い、売上高は前年並み
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 1.8%増**となる**1,346百万円**、**セグメント利益は同 541.6%増**となる**131百万円**となりました。

売上高・セグメント損益



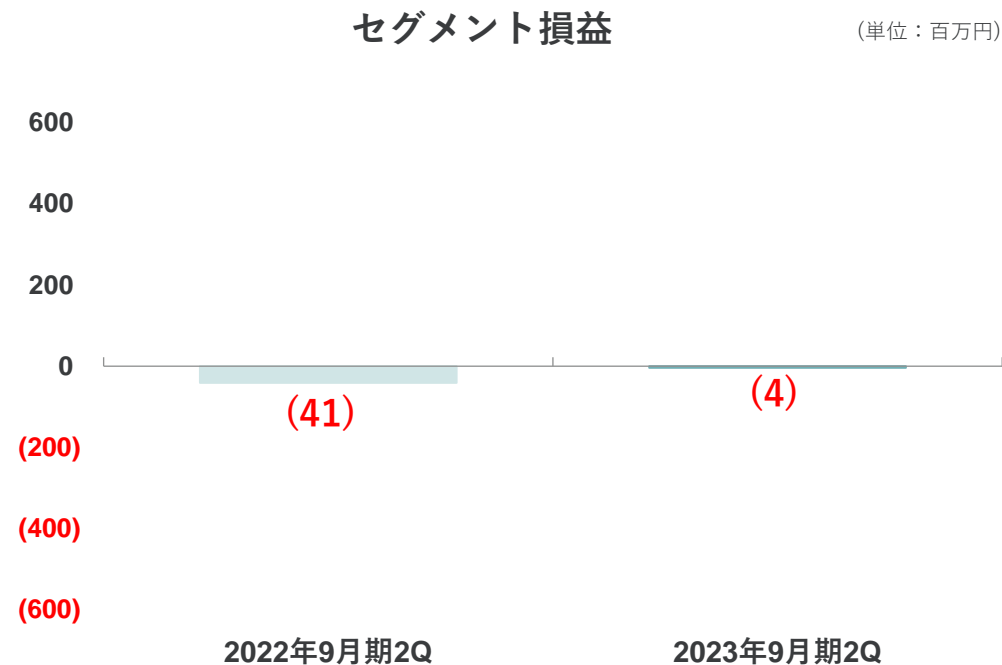
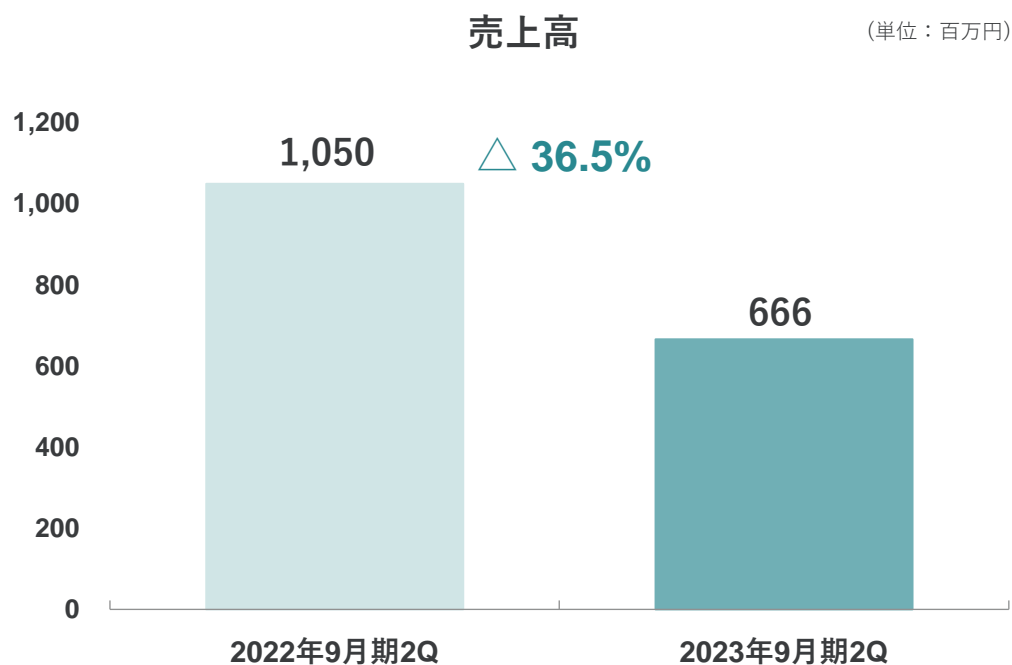
- 手書き文字認識エンジン「DEEP READ」のライセンス収入が安定して推移した一方で、グループ間での利用が減少
- 中国自習室事業の撤退に伴う販売管理費の減少等により利益率が改善
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 15.9%減**となる**167百万円**、**セグメント利益は59百万円**（前年同期はセグメント損失119万円）となりました。

売上高・セグメント損益



- 前年度に単独で受託した文部科学省による全国学力・学習状況調査（小学校事業）を、今年度は再委託機関として受託したこと等により、セグメント売上高は減少
- 一方で、再委託機関として受託したことに伴い、委託元とのコスト配分の最適化により、利益率が改善
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 36.5%減**となる**666百万円**、**セグメント損失は4百万円**（前年同期はセグメント損失41百万円）となりました。

売上高・セグメント損益



2023年9月期 通期見通し

2023年3月24日に公表した2023年9月期連結業績予想から変更ありません。

	22年9月期実績	23年9月期 2Q（実）	23年9月期通期（予）	進捗率
売上高	9,758	3,791	6,750	66.6%
営業利益	△234	△214	△850	—
経常利益	101	△371	△1,200	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△818	△1,998	△3,050	—

事業トピックス①

テストセンター事業

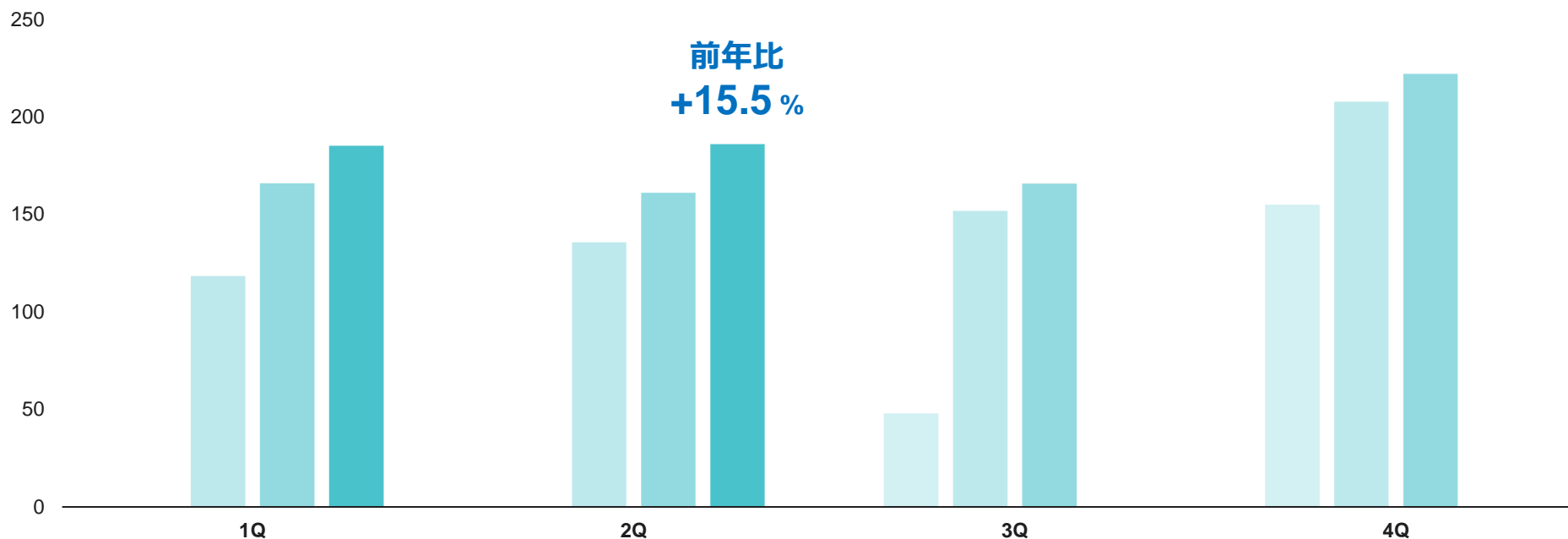
テストセンターでのCBT受験者数は引き続き増加

- テスト市場全体でCBT化が加速
- 医療系試験など、各種資格・検定試験でのテストセンター利用が増加
- 2023年9月期2Qの利用者数は約18.6万人。前年同期比で15.5%伸長

(単位：千人)

テストセンター利用者数 前年同期比の伸び率

■ 20/9期 ■ 21/9期 ■ 22/9期 ■ 23/9期



※2020年6月より運営開始しており、20/9期3Qの数値は一ヶ月のみ ※4Qは季節要因により需要増の傾向

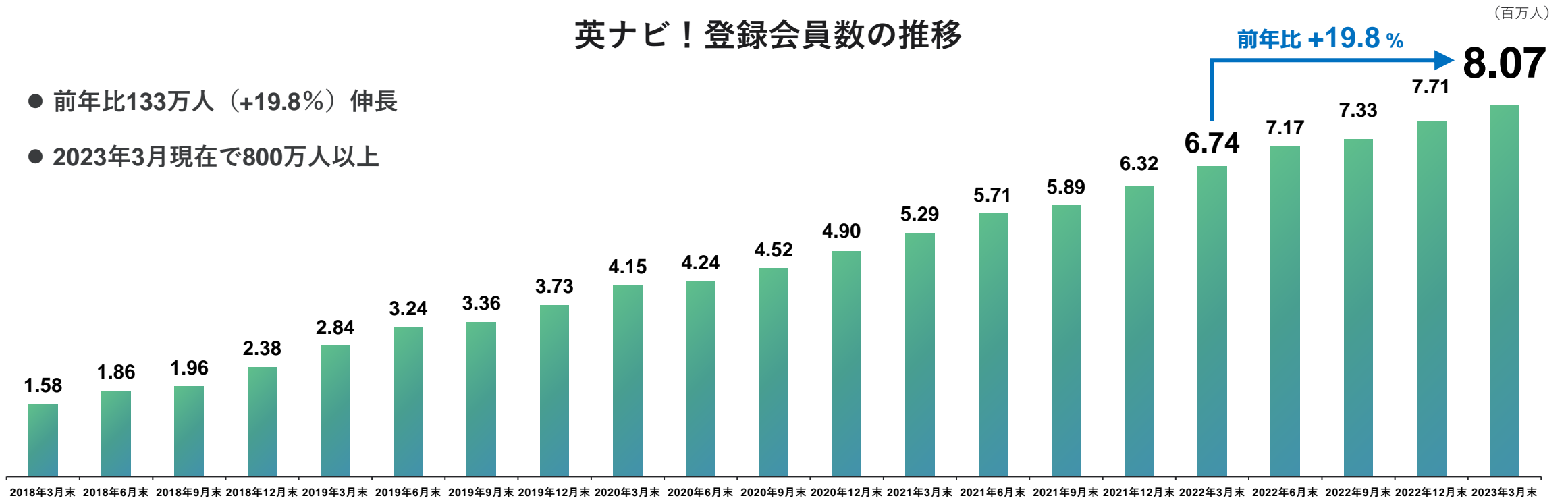
事業トピックス②

教育プラットフォーム事業

教育プラットフォームの基盤となる英ナビの会員数は中高生を中心に堅調に拡大
2023年3月末時点で約807万人となり、英ナビ広告単価の上昇に寄与

英ナビ！登録会員数の推移

- 前年比133万人 (+19.8%) 伸長
- 2023年3月現在で800万人以上



事業トピックス③

AI事業

教育業界のDXの一貫として、テストの採点業務の自動化を推進

独自の自然言語処理技術にOpenAI社「GPT-3.5」を組み合わせた、新たなAI自動採点エンジンの開発に成功

2023年3月16日付けプレスリリースより抜粋

- ✓ 95%の採点精度を実現、汎用性の高いAI自動採点エンジン
- ✓ 採点基準をAIの要素に当てはめることにより加点・減点要素を明確に提示
- ✓ 英語のライティング・スピーキングテストに対応し、今後は日本語の論述にも対応
- ✓ AI自動採点エンジンを活用した、英文の校正サービス「UGUIS（ウグイス）」を無料公開



The screenshot displays the UGUIS logo at the top, which includes a silhouette of a bird. Below the logo is a text input area containing the sentence: "Hello. We are going to have lunch tomorrow, but I have to go to hospital at the same time. I am busy and I can't have lunch with you tomorrow. I am very sorry. Can we meet next week?". A "CORRECT IT" button is positioned below the input. The corrected text is shown below, with changes highlighted in green and red: "Hello. We ~~are going~~ were planning to have lunch tomorrow, but I have to go to the hospital at the same time. I ~~am busy and~~'m sorry, but I ~~can~~ won't ~~have lunch with~~ be able to join you ~~tomorrow.~~ ~~I am very sorry~~ for lunch tomorrow. ~~Can~~ Could we meet up next week instead?". A "COPY RESULT" button is located at the bottom of the correction area.

- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2023年5月15日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。